

## 1. 研究の背景

学習指導要領の改訂により、小学校高学年の外国語が週 2 時間に増えることになり、時数の確保と教員の英語指導力向上が急務である。

本市では、平成 30 年度から外国語及び外国語活動の新学習指導要領に基づく先行実施を行っている。それを受けて本校では、昨年度 10 月から高学年の英語学習について週 1 回 45 分の ALT との TT による授業と、週 3 回×15 分の担任一人による短時間学習の授業の計週 2 時間の外国語の取り組みを試行してきた。6 ヶ月の試行期間の様子を見ると、児童は以前より英語での会話に慣れてきた様子だが、英語を専門としない教員にとって、一人で短時間学習の授業をすることにはまだ不安があり、児童・教員ともにコミュニケーションを楽しみながら学習に取り組んでいるとは言えない状況である。

1 学期当初に本校教員を対象に実施した「外国語の指導についての意識調査」では、全教員が英語の指導に自信がないことが分かった。英語の授業に対する不安な点としては、「授業計画」や「授業実践」が多く、次いで「英語の発音」が多い（図 1）。教材研究から一人で授業をつくり実践することへの不安が、英語の指導への自信のなさにつながっていると考えられる。また、昨年度も短時間学習では、学習内容に合わせて電子黒板やタブレットパソコン（以下

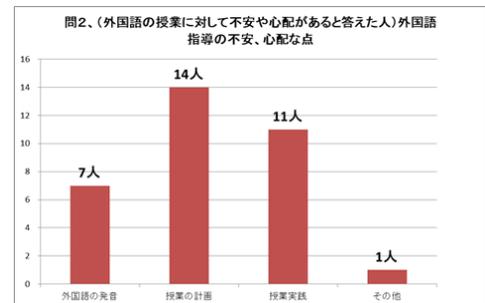


図 1 英語指導で不安な点

「TPC」、実物投影機と様々な ICT 機器を活用していたため、機器を切り替えての指導に手間取ってしまい 15 分という限られた時間を有効に活用できないという課題も挙げた。

一方、高学年児童 155 名を対象として 1 学期に実施した「短時間学習に関する意識調査」では、約 3 割の児童が短時間学習を嫌いとしており、「ほぼ毎日あること」「何をどうやるのか分からない」ことを理由として挙げていた。また、短時間学習で行っているゲームや対話などのアクティビティを理解して活動しているかという質問では、「やっているうちに分かってくる」と答えた児童が最も多く、15 分という短い時間内であるために活動内容を十分に理解できずに取り組んでいる現状も明らかになった。そこで、児童が短時間でアクティビティの内容を理解し活動を行えば、自信をもって活動に取り組み、意欲的にコミュニケーションを図ろうとするのではないかと考えた。

以上のことを踏まえ、英語を専門としない教員でも短時間学習による授業を安心して行うことができるために、活動の見通しをもちやすい指導案を作成する必要があると考えた。そして、教員が児童に端的に活動内容を説明し、十分に活動内容がつかめるような教材を作成し、ICT 機器をスムーズに使える環境を整えれば、児

童の活動内容が充実し、時間も確保できることで、児童が意欲的にコミュニケーション活動に取り組めるだろうと考えた。

## 2. 研究の目的

教員一人で行う短時間学習の指導の充実を図るため、短時間学習の授業パッケージを作成する。パッケージの内容は以下の通りである。

	短時間学習の授業パッケージの内容	媒体
①	学習指導案の作成（15分×3回を1枚とする）	紙で担任に配布
②	授業の進め方をガイドするスライドの作成 ・児童とともに授業で活用することを目的とする。 ・1つの単元で1セットのスライドを作成する。	MicrosoftPowerPoint による 単元ごとのスライドを校内 サーバーに保存
③	チャンツ・授業で扱うゲームや対話などのアクティビティのやり方等の動画の作成	ビデオ撮影したものを編集 し校内サーバーに保存

英語の指導に不安をもつ教員でも、学習指導案とスライドを通して授業の流れを事前に確認することができれば、見通しをもって授業に向かうことができ、15分という限られた時間内での活動を確実に行うことができると考える。また児童の視点からも、授業で使うアクティビティのやり方を動画で見ることで活動内容を理解し、コミュニケーション活動に意欲的に取り組むようになると考える。

## 3. 研究の経過

今年度の研究の過程をまとめたものは以下の通りである。

4月	校内研修の組織づくり（ICT部会、モジュール部会） 教員「外国語の指導に関する意識調査」の実施、 教員「ICT活用に関する意識調査」の実施	外国語短時間学習指導案作成 指導案を活用した授業の実施
5月	児童「短時間学習意識調査」の実施 セミナー参加	
6月	外国語短時間学習指導案検討・修正	ICT環境の整備・パッケージ作成
7月	実物投影機研修 英語教育アドバイザーによる指導・助言	パッケージを使った授業の実施
8月	1学期の成果と課題の整理・修正 セミナー参加	
9月	TPCのミニ研修	チャンツ・アクティビティの 動画作成
10月	英語のミニ研修	
11月	研究授業（5年）先進校視察	スライドの修正
12月	2学期の成果と課題の整理・修正	
1月	教員「ICT活用に関する意識調査」の実施	
2月	児童「短時間学習意識調査」の実施 先進校視察	アンケートの分析
3月	1年間の成果と課題のまとめ・次年度に向けての展望	パッケージ全体の検証・修正

## 4. 代表的な実践

### (1) 短時間学習の授業パッケージの作成

#### ①学習指導案の作成

本校の英語の年間計画に沿って、短時間学習の学習指導案を作成した(図2)。指導案は、45分の英語の授業の復習として行う15分×3回分である。一週間の短時間学習の内容がひと目で分かるように配慮した。

15分間の内訳は、あいさつ・チャンツや歌(5分)、アクティビティ(5分)、ライティング(5分)とし、教員も児童も毎回決まった流れで取り組めるようにした。教員はこの指導案と②で述べるスライドを用いて短時間学習の授業を行う。

#### ②授業の進め方をガイドするスライドの作成

実際の授業では、TPCをミラーリングでモニターに映し、校内サーバーに保存してあるスライドに沿って展開していただけるようにした。スライドは1セット4枚から成り、1セットが15分×3回分となる。スライドは、教員が①で述べた指導案と併用しやすいよう同じ順序で作成した。

実際に授業を行って見たところ、チャンツやアクティビティでデジタル教科書などのスライドとは別の教材を使用する際、切り替え操作に手間取ってしまい、操作を待っている間に児童の意欲が低下してしまうという問題が起こった。そのため、スライドにデジタル教科書などのリンクを貼ることで、スムーズに次の活動に進めるよう改善した。また、助成金で購入した実物投影機を活用し、紙のカードをそのまま大きく投影するなどしてテンポよく授業が進められるように配慮した。図3は、作成したスライドの一例である。

#### 1 あいさつ

毎時間行うものであるが、会話と文字の両方から質問を認識できるようにするために表示することにした。

#### 2 チャンツ・歌

45分の授業で学習した英単語の定着を図るために、チャンツや歌による活動を行う。学習内容に合わせ、デジタル教科書や助成金で購入したソフトを活用しやすいよう、スライドにリンクが貼ってある。

#### 3 アクティビティ

アクティビティの①～③は、指導案の①～③(図2)に照らし合わせて作成している。リンクをクリックすると、その日に学習するアクティビティの詳細なスライド(図3)が現われるように提示の仕方を工夫した。

#### 4 ライティング

英語を書くことに不慣れな児童への支援として、罫線も大きく提示してある。また、リンクを貼ったり実物を映したりしてモニターに児童と同じワークシートを大きく提示できるよう工夫した。

今週のモジュール ( 5 年 ) 2/18の週					
○基本の流れ 5分: あいさつ・チャンツや歌 5分: 学習中のアクティビティ 5分: ライティング(単語)					
	Day	チャンツ・歌	アクティビティ(ゲーム・対話)	ライティング	準備
①	2/18(月) Monday, February Eighteenth	①フレッシュカードで英単語を復習 ②Hi, friends! p.37 Let's Chant	カルタ(隣の人とペアで) 児童: What would you like? 教員: I'd like a <u>salad</u> . (慣れたら、新着役も児童にやらせてもよい) 言われた物を取る。	I'd like a <u>salad</u> . 食べたい物も□に入れて書いてみる。	授業で使ったメニューカード ・ワークシート ・教科書
②	2/20(水) Wednesday, February, Twentieth	①フレッシュカードで英単語を復習 ②Hi, friends! p.37 Let's Chant	会話練習 隣同士でグループで A: What would you like? B: I'd like an orange juice. A: (カードを持って) Here you are. B: Thank you.	I'd like a <u>salad</u> . 食べたい物も□に入れて書いてみる。	授業で使ったメニューカード ・ワークシート ・教科書
③	2/22(金) Friday February Twenty-second	①Hi, friends! p.37 Let's Listen2 ②チャンツ リアクション	会話練習 隣同士で自由に A: What would you like? B: I'd like French fries. A: Good. (カードを持って) Here you are. B: Thank you.	I'd like a <u>salad</u> . 食べたい物も□に入れて書いてみる。	授業で使ったメニューカード ・ワークシート ・教科書

図2 モジュール学習指導案の一例

文字をクリックするとアクティビティの詳細が書かれているスライドが出る。

デジタル教科書へのリンク

自作のチャンツへのリンク

必要に応じてワークシートへのリンク

アクティビティの詳細

**1. あいさつ**

- How are you ?
- What is the date today ?
- What day is it today ?
- How is the weather today ?

**2. チャンツ・歌**

① 《Hi, friends 1》 [p.37 Let's Chant](#)

② 《Hi, friends 1》 [p.37 Let's Chant](#)

③ 《Hi, friends 1》 [p.37 Let's Listen ②](#)  
(リアクションチャンツ)

**3. アクティビティ**

What would you like?  
I'd like .

① [かるたゲーム](#)

② [店員とお客さんになって注文をしよう。](#)

③ [店員とお客さんになって注文をしよう。](#)  
(リアクションもしてみよう)

**4. ライティング**

■ What would you like ?

I'd like a salad.

**①. かるた**

〈みんなで〉  
What would you like?  
〈先生〉  
I'd like a **salad**.  
〈みんな〉  
**salad**のかるたを取る

1回目 / 3回

②. 店員とお客さんになって注文をしよう。

What would you like?  
I'd like a **salad**.  
Here you are.  
Thank you.

2回目 / 3回

③. 店員とお客さんになって注文をしよう。

What would you like?  
I'd like a **salad**.  
**Good**. Here you are.  
Thank you.

3回目 / 3回

図 3 授業用の進め方をガイドするスライド

③チャンツ・アクティビティのやり方等の動画の作成

基本的に、チャンツは「We can」「Hi Friends」などのデジタル教科書や英語のソフトを活用し、アクティビティのやり方の説明については、前橋市が作成した「スターターキット」を活用した。しかし、児童の実態に合う教材がない場合は、ALT に協力を仰ぎ短い動画を作成し、(図4)、スライドにリンクを貼り活用した。

また、「クラスルームイングリッシュをもっと使えるようになりたい」という教員からの要望に応え、教員向けの「褒め言葉チャンツ」も作成し活用した。この教材については、前橋市の教材教具展に出品し最優秀賞を受賞し、市内で広く活用されることとなった。



図4 自作動画の一場面

(2) パッケージを活用した授業

5年生「We can! Unite5 What would you like?」の単元で、「注文のやりとりをしよう」というめあてのもとに行った実践である。指導案は図5の通りである。

	Day	チャンツ・歌	アクティビティ (ゲーム・対話)	ライティング	準備
③	2/22 (金) Friday February Twenty-second	①Hi, friends1 P37 Let's Listen2 ②チャンツ リアクション	会話練習 隣同士で一自由に A: What would you like? B: I'd like a French fries. A: Good. (カードを持って) Here you are. B: Thank you.	I'd like a salad. 食べたい物を□に入れて書いてみる。	・授業で使ったメニューカード ・ワークシート ・教科書

図5 実践授業の指導案

継続して同じ流れの授業を行ってきたことで、教員も児童もテンポよく取り組むことができ、課題であった15分以内での授業も行えた。また、アクティビティの詳細が書かれたスライドを活用したことで(図6)、児童は活動内容を容易に理解でき、主体的に学習に取り組んでいた。ある児童は、「朝だからな、ヨーグルトかな。I'd like yogurt.」とつぶやいており、形式的に活動をしているだけでなく、自分の思いを英語で表現している様子も多く見られた。また、「Great.」「Me, too.」など相手の言葉に反応していて、チャンツで行ったリアクション言葉を活用してコミュニケーションをとっている姿も見られた。教員からは、スライドに沿って授業を進めることで余裕が生まれ、支援が必要な児童とのアクティビティも積極的に行えるようになったという感想があった。教員が一緒になってアクティビティを行うことで、児童にとってのよいモデルとなったと考えられる。



図6 授業の様子

5. 研究の成果

作成した授業パッケージを活用した短時間学習の授業実践で、次の2つの成果があった。

一つ目は教員の指導力の向上である。短時間学習の授業モデルがあり、スライドにリンクを貼り付けることで授業をTPC一つで展開できるようになったことが、英語を専門としない教員の指導への不安解消になり、自信をもって授業に取り組めるようになった。また、余裕が生まれ視野も広くなり、アクティビティではよりの確な支援を行えるようになった。さらに、教員同士でパッケージ内容を改善していく活発な意見交換が行われるようになり、より充実した内容に修正していくことができた。

二つ目は、児童の変化である。3学期に実施した高学年への「短時間学習に関する意識調査」では8割の児童が「外国語の短時間学習が好き」という結果になった。また、「短時間学習のアクティビティを理解して活動しているか」という質問では、7割を超える児童が「はじめの先生の話でわかる」と答えており(図7)、アクティビティのスライドにリンクした分かりやすい活動内容の提示が有効な手立てとなったことがわかる。授業を繰り返していくことで、今では児童もテンポよく短時間学習に取り組んでいる。

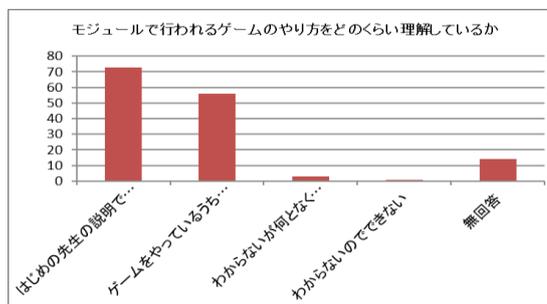


図7 アクティビティのやり方を理解しているか

また、チャンツで既習の単語やフレーズを繰り返し練習することで、単語やフレーズが定着し、次のアクティビティに安心して取り組めるようになってきている。実践授業でも紹介したように、児童はただ単に知っている単語ではなく、自分が言いたい内容を英語で話そうとする姿が見られるようになったことは、本研究のねらいである「児童が意欲的にコミュニケーションをする姿」が成果として表れたものと考えられる。

そして、このような教員の意識の変化と児童の意欲の高まりは、短時間学習の授業にとどまらず、45分授業への取り組みにもよい影響を及ぼしている。

## 6. 今後の課題・展望

今後の課題としては、まず週1回45分授業との関わりである。パッケージは、45分授業の復習として学習内容を構成しているため、行事等で45分授業がカットされた場合に当初の計画と合わなくなってしまうという点である。年間計画を立てる段階で考慮することが必要である。

二つ目は、TPCのみではモニター上でスライドが替わってしまうため、チャンツの単語をアクティビティで活用したい場合に視覚情報がなくなってしまうことである。理解に時間を要する児童の支援のためにも、黒板に残せるフラッシュカード等とTPCを併用するなどの工夫が必要である。

今年度は、市のシステムが長期的に使用できない期間があったため、予定していたスカイプによる他学校との交流学习に取り組むことができなかつたので、今後ぜひ取り組んでいきたいと考えている。なお本校は、来年度に前橋市の「外国語・外国語活動」の研究指定校になっている。今後は、本研究を発展させ、児童がより自分の思いを伝えたいと思えるアクティビティ教材の開発や場の設定について研究していきたい。

## 7. おわりに

グローバル化が進む中で、学校教育においてもICT機器を効果的に活用しながら外国語の指導に取り組むためには、教員の指導力の向上が必要である。しかし、児童に限らず教員においても、新しいものを取り入れるためには、授業の展開を明確にイメージできるような指導案や授業のモデルが必要である。

本研究の「パッケージ作成とその活用」は、英語を専門としない教員が一人で授業を行うことへの自信になり、学校全体の指導力を向上の一つの例になった。また本研究を通して、教員の「新しいことにチャレンジしよう」という意欲が生まれ、チームワークも高まった。何よりも、児童から英語が楽しいという声が聞こえるようになったことが大きな成果であると考えられる。

このような機会をつくっていただいたパナソニック教育財団に感謝すると共に、本研究の成果を次年度に生かしていきたい。

## 8. 参考文献他

- ・文部科学省『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説外国語活動・外国語編』
- ・Microsoft PowerPointは、米国Microsoft Corporationの米国及びその他の国における商標Microsoft PowerPointを指す。